

令和3年度第2回海田中学校区学校運営協議会 議事録

15:30～ 事務局校長 挨拶

- ・この度は自己肯定感を高める取組に特化して紹介・協議を進めていく。

15:35～ 各校中間報告

・3校にまたがる活動

自己肯定感を高める活動として、「心の元気」全町展開プロジェクトを行っている。

挨拶運動、植栽運動、清掃活動に3校でそれぞれ取り組むことにより、集まったの活動が難しい中同じ体験を通して「自ら考え、実践する」児童生徒の育成を図っている。

・海田東小学校

教員が、また児童が相互に肯定的な評価を行うことによって、児童の自己肯定感を高めようとしている。具体的には次のようなものである。

○児童の作品には付箋で肯定的な評価を行うようにしている。

○行事ごとの振り返りや日々の「良いこと見つけ」で友達の良いところを見つけ、掲示として貼りだしている(例 きらりの木)。

○野外活動などの行事の際には、振り返りを重視し、自分の良さ、友達の良さに気付くようにしている。

○道徳教育推進地域授業(中学校の推進リーダーが小学校に訪問して授業に参加する)における目標も「自己肯定感の向上」とし、単元として自己肯定感を高める道徳学習プログラムを組み、いくつかの道徳科の授業や関連する行事を有機的に結び付けている。

このような取組の結果、中間報告では、「自分には良いところがある」とアンケートに答えた児童が79%となった。

・海田中学校

Kiseki(絆・積極性・希望)を合言葉に、生徒の自治的な活動を進めている。校内では黙動流汗清掃、地域では道楽隊(清掃活動)を行う。

感染症の流行で昨年度休止した体育祭(6/24)を実施するなど、生徒が活躍する場面を設定してきたが、7月に実施した意識調査では、「自分には良いところがあります」と肯定的に回答した生徒は3年生が69.7%と昨年度の12月と比較して16.7ポイントの減少であった。これは期末試験終了後であったり、進路選択の時期と重なったりし、自信が持てなくなっていたことなどが要因の一つと考えている。

その後、文化祭(10月31日)後に再度意識調査を実施したところ、「自分には良いところがあります」と肯定的に回答した3年生の生徒は81%を超えた。また、「周りの人に認められている」と答えた生徒は69.6%だったが、「周りの人の良さを見つけた」と答えた生徒は93.7%と高い数値だった。今後は、お互いに気づいた良さを伝えあう活動や自己肯定感の低い生徒に対して個別に良さを認める声掛けを行うなど取組を進めていく。

・海田南小学校

行事等によって高まった自己肯定感を、いかに維持していくかが課題である。挨拶についての児童アンケートにおける肯定的評価は90.3%と高かった。また、自粛明けで縦割り班活動等体験的活動を復活させたため、自己肯定感についての自己評価も80%と高かった。

補充学習などで学びの積み残しをなくすことに取り組むとともに、高校生を講師に招いた陸上練習、中学校の体育祭をビデオ視聴することであこがれや目標をもたせること、さらに自分たちの良さを実感できる活動を仕組んでいく。

・学校運営委員の皆様からのご意見、ご感想

○東小では中学校からの乗り入れ道徳の授業の話があったが、南小でもやっているのか？

→行っている。中学校の先生に学ぶことが子供たちにとっては喜びとなっている。

○東小、南小の児童クラブに出ている。帰りの会の中で、どちらの小学校の子も、よくものを言う。日頃の指導の成果であると考ええる。

○自粛明けでようやく学校に来れるようになった。行事も復活し、子供たちは良い顔をしている。体験は大切。中学校の行事を小学生がビデオ視聴するなどの取組が自己肯定感の向上につながっていると思う。

○中学校の文化祭がとてもよかった。展示物、合唱ともに充実していた。(同じ意見多数)

○自粛でPTAと学校との距離が開いてしまった。行事があると学校の様子が分かる。

○自粛期間だからこそ、もっと型にはまらずできることをやってほしい。

・学校からお願い

○県の入試制度が変わり、中学生にも面接が行われる。できるなら面接の練習を手伝っていただきたい。

○感染防止で職場体験ができていない。仕事を紹介するゲストティーチャーとして参加していただきたい。

・連絡事項(各校の行事紹介等)

○南小

11/4 SDGs 体験 11/16 体育参観日 12/14 校内持久走大会

○東小

11/5 東小まつり 11/4,5 自由参観 12/20 体育発表会

○海田中

11/8 体験入学 11/16 道楽隊(地域清掃活動) 11/22 道徳授業研究

◎次回学校運営協議会 2/22